

若い母親の子育てに対する難しさを解消するためコミュニティによる支援活動について、そのニーズや実態を明らかにしたものである。これらの支援活動が親の孤立を防ぐことを通して、虐待予防にもつながることも示された。

地域の主体的な活動に対しての行政の運営支援の制度や役割・責任の分担の考え方について、コンセンサスを確立することが課題として残されていることなどが議論された。

### 第3会場「住宅・グループホーム1」

座長 古瀬敏（建築研究所）

#### 27. 埼玉州市町村における高齢者住宅改修相談事業の実態と課題

高橋儀平（東洋大学）、生貝典子、野口祐子

介護保険導入後の住宅改修相談事業がどうなされているかについて、埼玉県下の市町村での調査を行い、介護保険の導入にもかかわらず、住宅改修の意味がまだ自治体に十分理解されていないこと、また専門職の関与が不足していることなどが明らかにされた。

#### 28. 神奈川県下における高齢者等に対応した住宅改造に関する研究

中右令子（明治大学）、園田真理子

神奈川県下で建築士会女性委員会福祉部会が行った住宅改造に関連する活動の実態を調査した。改造が行われた場所は便所と浴室が代表的で、内容的には手すり設置と

段差解消であって、他と異なるものではない。改造相談は介護保険施行後に若干であるが関与の程度が高くなっていることが認められた。

#### 29. 兵庫県における住宅改造助成事業の現状と課題－障害者・高齢者の動作能力に対応した住宅空間設計に関する基礎的研究－

金井謙介（兵庫県立総合リハビリテーションセンター福祉のまちづくり工学研究所）、糟谷佐紀、阪東美智子、米田郁夫、多淵敏樹、

兵庫県において行われている住宅改造助成事業について調査し、要介護度や地域差によって助成事業利用率や改造内容に差があると報告している。介護保険の導入がそれ以前の制度に比べて必ずしも水準向上につながっていない実態が見られた。

#### 30. 慢性関節リウマチ患者の住環境の現状と改修ニーズに関する研究－実態調査に基づく障害特性と改修経過についての考察－

野口祐子（東洋大学）、高橋儀平

リウマチ患者のための住宅改造のなされ方をアンケート調査し、一部の住宅については訪問調査がなされた。リウマチでは症状の変化に伴って改造が繰り返されるのが一般的であるが、そうした実情に対応する制度的支援は十分でないと指摘している。また施工業者の知識不足も問題を大きくしているという。

以上、このセッションでは主として介護

保険と住宅改造との議論がなされたが、基本的な情報であるべき住宅の建設年次が事実上調査対象から抜け落ちているのは研究としては不十分と指摘せざるを得ない。いつ建てられたかが住宅のもともとの高齢対応水準を実質的に決めており、その前提の基に能力低下（要介護度進行）に対応する手法を提案・検証していくべきであって、その点を明確にしないでは結局は本質に迫ることができず、ありきたりの報告に終わってしまうであろう。環境と居住者のミスマッチをどうするか、というのが当学会の基本的なスタンスであろうから、データのギャップを埋める努力を期待したい。

### 第3会場「住宅・グループホーム2」

座長 野村 歡（日本大学理工学部）

#### 31. 地域社会におけるグループホームのあり方に関する研究（その1）－調査概要及び居住環境－

徳田哲男（埼玉県立大学）、前川佳史、蓑輪裕子、薦末憲子、瀬戸眞弓、大隅 昇

全国のグループホームに対する郵送調査によって、施設の概要（立地条件・運営主体・開設年・ユニット数・職員数・入居者の身体機能等）の居住環境を調査した結果報告である（調査対象は241施設）。これによると、2000年に開設した施設が半数近くを占めているものの、既存建築物の活用も多く見られ、ここでは布団の利用率も高いこと、また、台所では対面型が半数近くを占めていることが報告された。

#### 32. 地域社会におけるグループホームの

#### あり方に関する研究（その2）－ホームの立地と入居者の外出状況－

前川佳史（東京都老人総合研究所）、徳田哲男、蓑輪裕子、薦末憲子、瀬戸眞弓、大隅 昇

前編に引き続きの報告で、立地場所と入居者の外出行動の概要についての報告である。立地条件を住宅地・商店中心・田園・山村に分類すると、住宅地が最も多く、以下、田園、山村、商店中心の順となる。しかし、徘徊を除く外出頻度は商店中心が最も多く、以下、住宅地、田園、山村となる。外出の阻害要因は「付き添いのスタッフが不足」であり、また、外出時の「車」に対して危険を感じていることが明らかにされた。これらのことから今後は周辺環境の整備も重要であることを結論づけた。

#### 33. 福祉のまちづくりのための人材育成－健和会補助器具講座からの報告－

窪田 静（健和会補助器具センター）、河添竜志郎、下元佳子

健和会の長年にわたる福祉用具プランニング（住宅改造と福祉用具を活用した住環境整備）実践する専門家の育成プログラム講座の報告である。発表者らが過去に携わった講習会の内容を分析し、問題点と課題を整理し、講習会は自ら企画・運営しながら講師を務め、継続発展的に受講できるシステムを入門・初級・中級の3コースを立ち上げ、実際にそれを実践しながらさらに内容をレベルアップしていく過程を詳細に記した貴重な報告である。

#### 34. 痴呆高齢者にとって安全な屋外環境